

# 鹿行の医師育成に力

## 清真学園高中プログラム

鹿行地域の医療を支える人材を育てようと、清真学園高中(鹿嶋市宮中、柴山修二校長)が研究活動や講演、病院見学などで構成する「医学プログラム」を開設している。昨年度の医学部合格者は国公立7人、私立14人の計21人と、2021年度のプロگرام開始以降最多に。医学部志望者に加え、看護や薬学などの分野を志す生徒も受講しており、地元出身の生徒が地域の安心の担い手になることが期待される。(鹿嶋支社・村田知宏)

レポート  
2026

### ■広い視野で

同校は07年のスーパーサイエンスハイスクール(S・SH)指定を機に、生徒自身がテーマを決めて課題に取り組む「活動を開始」「医療系ゼミ」もそのひとつで、同時に、病院見学会や医療従事者が講演するゼミナーなども行ってきた。これらを整理し、21年度から「医学プログラム」がスタートした。

プログラムの受講は生徒の任意となっており、医学部志望者以外でも受講することができる。対象を絞ら

## 医大合格増、担い手期待



「医学セミナー」を受講する清真学園高の生徒たち＝鹿嶋市宮中

ないのは、生徒に広い視野で進路を選んでもらうためだ。

本年度、医学セミナーを受講する同高2年、石崎巧大さん(16)は、将来の進路について診療放射線技師と教師との間で悩んでいるという。「どちらも人に寄り添い支援する点は同じ。医療に必要な高い集中力は、どの職業でも生きる。自分の適性を見極めたい」と語る。

る。

### ■同窓生の絆

限られた医療資源をどう生かすかは長く地域の課題だった。さらに、近年は医療の姿自体も変化している。同校4期生で小山記念病院(同市厨)の池田和穂院長(61)は「チーム医療が主流になり、医師が一人で全てを担う時代ではなくなった。看護師も薬剤師も必要」と指摘する。

地域で働いてみれば、足りない部分が明確になるので「と見据える。」

### ■知見の還元

筑波大耳鼻咽喉科・頭頸部外科特任講師で医師の井伊里恵子さん(40)も同市出身の24期生だ。週1日、土浦協同病院なめがた地域医療センター(行方市井上藤井)耳鼻咽喉科で診療。昨年度までは神栖市内の病院でも勤務していた。

地域の医療人材不足を認識しつつ、大きな病院で経験を積む大切さも実感。後進の医師に対し「外の病院で知識や技術を学んで還元してもらえの方が、結果的に地元に対する貢献になる」と強調する。

池田院長は卒業生同士のネットワーク構築を思い描く。同市出身で40期生の高沢秋人さん(24)は、今春から半年間、同病院に初期研修医として勤務する。高校時代に県外の病院の救急科を見学し「最前線で命と向き合う現場に刺激を受けた」と振り返る。地域の医師不足について実感は薄いというが、池田院長は「ほかの

小山記念病院での研修後は別の病院に移る高沢さんも「将来は地元に戻りたい」と希望する。池田院長は「両親や知り合い、地域住民の健康を守りたいという思いは、大きなモチベーションになる」と語る。

鹿行の安心を守る「好循環」を生み出すのか。同校の取り組みが注目される。